



学校教育努力点「ともに学び ともに高める」(北中ブロック共通)

合言葉「ひらこう! まなびのとびら つなごう! みんなのこころ」

主体的に学ぶ児童を育てるために、「ひらこう! まなびのとびら つなごう! みんなのこころ」を合言葉に全ての学校教育を進めています。

1 学習

学習においては、以下のように4年計画を進めます。

- 1年目:「めあて」「振り返り」を授業に位置づける
- 2年目:「めあて」を達成する方法を学ぶ
- 3年目:学んだことを振り返る
- 4年目:(今年度) 自分で学びの「めあて」を設定する**



① めあてー振り返りを支える「OPP(ワンページポートフォリオ)シート」の活用

OPPシートとは、学習者が学びを振り返り、児童の学びに応じて、適切な助言を可能にするシートです。児童の学びに伴走できるように、1年目よりOPPシート開発者の堀哲夫氏(山梨大学前理事、名誉教授)や中島雅子氏(埼玉大学准教授)に教えていただき、実践を行っています。

今年度も、昨年度までの取り組みを生かして、全学年で右のようなOPPシートを授業で活用します。



【一昨年度5年生が作成した「書写:OPPシート」】

② 力を試し、振り返りを促す「評価テスト」の活用

児童のできた! をまるごとサポート

ユニバーサルデザインのための工夫がたくさん!

読みやすい
UDフォントの使用

② 次のことが知り調べますか。1つ。調から家を出てはれど、かさを

見やすい
カラーバリエーションに配慮

色の違いがわかりやすい配色

わかりやすい
すべての漢字にルビ付き

関が変化するとき、いつも関の字が増える。

取り組みやすい
見通しのもてるめあてを提示

知識・技能

適切に「めあて」「振り返り」ができる子どもにとって必要なことは、「分かること」「分からないこと」を明確にし、分からないことを分かるようにすることであると考えます。

そこで、「評価テスト」を採択することで、問題を解くだけでなく、テスト後には解答例を見て、その後の学び直しも授業中や家庭学習として行うことができます。

そして、全学年で算数を、学年によって国語や理科などの評価テストも活用します。評価テストは、子どもが読みやすいフォントや見やすい写真を使用し、できたをサポートする工夫がたくさんされています。

③ 学ぶ内容や方法を選び、実践する「家庭学習」の推進

将来、自分の力で学ぶことができるようになるためには、子どもの実態や年齢に応じた支援が必要になります。家庭学習の初歩の段階では、学びのめあてや理解の確かめは、教師や周りの大人が与えることも大切です。また、家庭学習が滞ってしまう段階では、分析や練習の内容を一緒に行うといった支援も必要になってきます。学校・家庭で同じような考えの下、ともに子どもの主体的な学びに伴走できる体制を整えていきたいと考えています。

そこで、主体的に学ぶ児童を育てるためには、学校・家庭で同じように進めていく必要があります。以下は、「けてぶれ学習法」と呼ばれる家庭学習の流れの一例です。

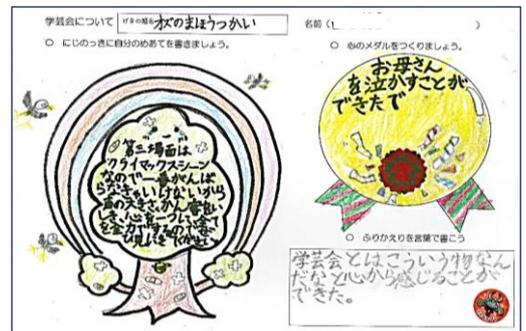
- ① 学びのめあてを決める(け:計画をする)
- ② 理解の確かめをする(て:テストをする)
- ③ 理解の程度を把握し、めあてを達成するために必要なことを考える(ぶ:分析・振り返り)
- ④ 問題を解いたり、くりかえし練習したりする(れ:練習する)

ここで提示した例は、葛原祥太氏(元小学校教諭)が考えた学習方法(「けてぶれ学習法」)です。葛原氏は、子ども自身が勉強の方法を考える「けてぶれ学習法」を提唱しています。「計画→テスト→分析→練習」のサイクルにそって勉強し、自己改善を繰り返しながら、自分に合った勉強方法を見つけしていくという勉強方法です。参考にしていただければと思います。

2 行事

すべての活動に「めあて」をもって取り組み、「振り返り」を適切に行うことで、次への学びに生かすことが大切であると考えています。

そこで、本校では、右のような「めあて一振り返り」シートを行事ごとに作成し、自身の頑張りを「〇〇賞」として称賛し、自己肯定感を高めることができるようにしています。これらの学びの履歴は、「キャリアパスポート」に綴り、小中学校9年間での成長の足跡として活用します。



【学芸会で4年生が作成した「めあて一振り返り」シート】

今年度も、たくさんの活動の中で、児童の「〇〇したい」という思いを大切に、児童との対話を取り入れて作り上げていこうと考えています。このように、児童の思いを中心に据えた活動を繰り返し行っていくことで、自分の思いが「形になった」という成功体験になり、自己有用感や自己肯定感の高まりにもつながっていくことを期待しています。

3 「ナゴヤ学びのコンパス」



一昨年度から、名古屋市は、左のような「ナゴヤ学びのコンパス」(別紙)が提示されました。これを受け、本校でも教育活動を見直しています。今年で4年目を迎える学校教育努力点の取り組みは、名古屋市が重視したい学びの姿である「主体的・対話的で深い学び」に合致しています。特に、以下の3点を積極的に取り入れます。

- ・自分のペースや方法で学ぶ
- ・多様な人と学び合う
- ・夢中で探究する

学びの姿を教科の学習や行事等で多くみられるよう、活動の中で子ども同士や子どもと教師などの対話を重ね、よりよい教育活動の展開を工夫します。